

第2回内丸地区再整備検討懇話会 議事要旨			
日時	令和5年3月29日(水) 13:30~15:20	会場	盛岡市勤労福祉会館 5階 大ホール
出席者	懇話会委員	国立大学法人岩手大学工学部教授(座長) 盛岡市商工会議所専務理事(副座長) 財務省東北財務局盛岡財務事務所長 岩手県ふるさと振興部長 学校法人岩手医科大学医学部長 株式会社岩手銀行取締役常務執行役員 株式会社岩手日報社常務取締役執行役員総務局長 株式会社北日本銀行総務部長(代理:同部部長代理) 宗教法人櫻山神社宮司 株式会社テレビ岩手常務取締役経営企画局長兼技術局長 株式会社東北銀行支店統括部部長執行役員 東北電力ネットワーク株式会社盛岡電力センター所長 東日本電信電話株式会社宮城事業部岩手支店長 三田農林株式会社取締役社長 盛岡市商店街連合会副会長 盛岡市副市長	
	盛岡市	都市整備部長 市長公室長 建設部長 都市整備部次長 企画調整課長 管財課長 交通政策課長 市街地整備課長 都市計画課長、同課課長補佐、同課副主幹兼土地利用計画係長、同係員	
	UR都市機構	東北まちづくり支援事務所長、まちづくり支援事務所調整役、まちづくり支援課長、同課主査	
	受注者	(公社)日本交通計画協会・(株)国際開発コンサルタンツJV	
(内容) ●協議事項等 (1)の項目について、資料1-1を都市整備部長が説明。資料1-2及び資料1別紙を都市計画課長が説明。 ●質疑応答・意見・コメント 盛岡財務事務所 : 災害対応の観点から、発災時は迅速な対応が求められる。行政機関が集積している内丸地区を、災害対応の広域拠点、中枢拠点と位置付けられていることは良いと思う。今後、内丸プランに基づく再整備に向けて財務事務所として出来ることを			

地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

県ふるさと振興部：これまでの意見を十分盛り込まれたと認識している。内丸のポテンシャルを踏まえると、内丸地区だけでなく、県内、北東北、国内外へ盛岡らしさ及び岩手らしさの価値等による波及効果があると思うので、更に議論を深めていきたい。

：一団地の官公庁施設については、関係機関と協議し、今後のあり方の方向性を示していく必要がある。専門家のほか、広く市民、県民の意見を聴きながら丁寧に進めてもらいたい。

岩手医科大学：附属病院跡地活用が大きなポイントになると認識しているので、全面的に協力していきたい。現在メディカルセンターは旧附属病院の建物を使っているが、新棟建設に向けて準備中である。世界情勢により先が見通しにくい状況の為、柔軟に進めていかなければならないと考えている。2万㎡の跡地活用なので、柔軟に検討していくためにも、都市計画の見直し、事業手法、財政支援についても検討いただきたい。

岩手銀行：一民間企業者として、今できることとしてNTT東日本と協力して昨年10月にNTT東日本のビルの1階にカフェをオープンさせたところで、11月から3月の間に2万6千人の利用者があり、今後も昼間人口の増加や活性化を図る活動をしていく。

：内丸メディカルセンターは、盛岡市民はもとより他の地域の方々にとっても重要であり盛岡市民にとっての内丸、県都盛岡の内丸という地区の役割の中心を担って欲しい。

岩手日報：「盛岡らしさ」に目を向けられている中でのとりまとめで良かったと思う。更に「盛岡らしさ」について市民と一緒に考えていくことが重要だと思う。

：完了年度が2050年だが、その間に明確な目標を示していかないと、民間としては対応できないかもしれない。メディア企業として内丸地区で何ができるか考えていきたい。

北日本銀行：弊社建物は築60数年であるが、目標3つ目の「地域資源を活かした風格ある都市空間デザイン」とあるように、既存資源として活かしていきたい。

：災害に強いという点は気になる場所であり、プランの中に多く盛り込まれており協力していきたい。

：「盛岡らしさ」は、受け止める側の感覚も大事である。市民や経緯を知る各社が「盛岡らしさ」をうまく出していければと思う。

櫻山神社：最近、神社の前を多くの人が歩くようになり、日本を含めたアジアの旅行客も多く、御朱印授与数が過去最高である。旅行客は新幹線を降りて歩いて来られているが、盛岡市民には歩いて繋がるという意識は薄いと思われる。とりまとめでは歩いて繋がる、回遊性があるというのは内丸地区にシンボリックな何かが必要ではないかと考えている。シンボリックなもので回遊性が生まれることを期待している。

テレビ岩手：中間とりまとめは盛岡のこれからの考える良い材料だと感じた。うちまるサロンの成果として市民目線が盛り込まれていて有難い。

	<p>: 2050年までの長いスパンで、民間企業としては超長期計画に落とし込んでいくのは難しく、経済的にも難しい状況なので、財政的な検討も併せて進めていただきたい。</p> <p>: まちの美しさも大事だが、行政と民間が集積しているまちなので、観光だけでなく商工業も含めた集積を目指してもらいたいし、新市庁舎の動きにも注視している。</p>
東北銀行	<p>: 再整備の目標や方針により改めて重要な内容だと感じた。実現に向けた検討が重要と認識しているので、建物の老朽化の程度を考慮しつつ丁寧な議論とスピード感を持って進めていただきたい。</p>
東北電力	<p>: 中間とりまとめは盛岡らしさを踏まえた分かり易いまとめになったと感じている。プランがまとまり事業が進んでいく中で、電力会社の立場から必要な電力供給できる体制を整えていく必要性を感じている。環境性能や災害対策に対して、持ち得ているノウハウがあると思うので、お役に立てればと思う。建物は老朽化しているので、プランと歩調を合わせて進めていければと思う。</p>
NTT東日本	<p>: 自社の事業課題に老朽化建物の維持改修があったが、中央通り沿いにICTを活用したオープンカフェを開設したほか、サイネージで盛岡市を紹介する動画も流している。まちの賑わい創出について自社ならではの方法による貢献を施行している。</p> <p>: 中間とりまとめは多角的な視点でまとめられ素晴らしいので、今後は、関係者と調整しながら足並みを揃えて進めていきたい。</p>
三田農林	<p>: 今朝のニュースで、バスが一部減便とあり、まちの現実は厳しいと感じている。ウオーカブルジェムと言うが、これが現実。</p> <p>: 2月の実務者会議に参加していたので、その資料と比較したところ、6ページで「盛岡らしさを失うことなく」から「継承し」と表現が変わり、無難な表現になったと理解した。また、「現実的かつどこにもない盛岡らしい」が「現実的かつ独創的な盛岡らしい」へと変わっている。「盛岡らしさ」は重要だが、大変儂いものと思うので頑張って守っていく必要があり、普段から「盛岡らしさ」は真剣に考えていかないといけないと思う。だから、今回の「独創的な」より前回の「どこにもない」の方が強いトーンで覚悟を示せていて良かった。「らしさ」は何もしないで結晶化（クリスタル）するわけではなくストレス（例えば議論）が必要だと思う。</p> <p>: 内丸地区の課題である「周辺地区の街区・施設とは異なる大規模街区・大規模施設の立地によるスケール感の変化」については、やや分かりにくい表現であるが、読み解くと、人が通れたり、緑地を作ることに繋がり、非常に良いことだと思うし、行政敷地内を歩いて休めるというのは治安が良くないとできないことであることから、取り組んでもらいたい。</p> <p>: 内丸地区に官公庁施設ができた当時、弊社では薪を使い、くみ取りの糞尿を集めてりんご園に使っていた。内丸プランが実現する頃には更にシステムも変わり、ビルの木造化、木質エネルギー、トイレから先に栄養を回収できるような古くて新しい技術の可能性が考えられると思う。</p>
商店街連合会	<p>: 2050年という長い目標はまちづくりで大切だと思う。二度と無い岩手医大跡地の</p>

活用も慎重に考えないといけないものの、商業者は日々の売り上げも大事であり、まちができた頃に商売人がいないということがないよう商業を維持していくための後押しとして夢を抱いていけるプランを示していくことが必要である。プランによって先行きの夢を描けるかが後継者の問題にも関わってくる。

:「盛岡らしさ」について、大手先に団子屋、お菓子屋が3軒並んでいて、観光客もその店を目指して来る方もいる。櫻山商店街も同様だが、小規模でも3軒並んでいることが「盛岡らしさ」の象徴である。この状況を維持し、商売できるようにプランを作成していただきたい。

:内丸地区や隣接地区に沢山住んでいただけるまちづくりも大切である。中央通り沿いやバスセンター周辺にマンションが建っており、まちなかの住民は減っておらず、子育て世代も結構いるので、このファクターを無くさないようにしていきたい。住人が便利に暮らせる環境が整っている内丸地区であるという観点も入れることにより、小規模な個人商店も続けられると思う。

:他地区から中心市街地に来た人に聞くと、まちなかを若い人・学生が沢山歩いていることに驚いていたが、大学等があり、学生がいることがまちの大きな魅力であり、郊外に学校があっても本屋、映画館、カフェなどがあることによって若い人を引き寄せている。若い人達は新しい文化を創り、新しいものも求めるので、新たにお店もできたり、SNSによる発信力もある。住人にとって住み良いまちと同様に、内丸地区を中心としたエリアを若い人が歩いてくれるようなまちを維持していければ良いし、盛岡城跡公園の芝生広場のPFI事業の実現も大切なことだと思う。

:中津川は、まちの身近な自然の象徴で、鮭が帰る清流としてシンボルの一つであるが、近年は三陸沿岸の海水温の上昇により最盛期の0.6%まで鮭の遡上が激減している。鮭が帰らなくなってきたので、「鮭帰る中津川」という表現に頼らない方が良いと思う。

盛岡商工会議所 : 様々な立場の方々の意見を取り入れた上手い中間とりまとめと思う。ニューヨーク・タイムズ紙の記事とのフィット感がある。

: 今後は、事業手法など関係者との調整を積み上げていく必要があり、新市庁舎との擦り合わせも上手く進むよう期待したい。

中村副市長 : 来年度は具体化して成案に繋げていくが、2050年を見据えるとともに、各施設の老朽化状況やスケジュールも踏まえて検討を進めていく必要がある。併せて新市庁舎の検討も11月を目途に整備計画と移転計画を取りまとめ、担当部局の連携を図りながら方向性を示していきたい。

: ニューヨーク・タイムズ紙関連として、4月1日号の市広報紙で特集を行う予定であるほか、新幹線の車内誌4月号にも掲載予定であるので、乗車した際はご覧いただきたい。

南座長 : 今回のとりまとめで「盛岡らしさ」をキーワードに可能性を示すことにより、前向きな発想を持つことが出来るようになったのではないかと思う。事業手法や財政面、それぞれのスケジュールをもう少し確からしいものを提示出来ると各関係者

も調整し易くなると思うので、関係者の意見をよく聴き進めてもらいたい。

商店街連合会 : 「盛岡らしさ」というと、伝統的なものと捉えがちであるが、新しい「盛岡らしさ」を創っていく、発信していく観点も大事だと思う。例えばヘラルボニーの活動のような障害者アートの発信は盛岡にしかない先進的な文化あり、そのような新しく創られる「盛岡らしさ」も発信していければ良いと思う。

●その他

(1)の項目について、資料2により都市計画課長が説明。

●質疑応答・意見

南座長 : 3D都市モデルのデータは公開されるか。

都市計画課長 : オープンデータとして、今後、市のホームページで公開予定である。

以上